

六原まちづくり委員会
令和6年度事業報告書

報告期間：令和6年6月1日～令和7年5月31日

【1. 具体的な活動内容】

まちの総合戦略を手がける第1部会と主に防災観点の取組を手がける第2部会を設置し、以下の活動を行った。

2部会共通事項

学識経験者・各種専門家を交え、表に示す回数の検討会議を実施した。

	コアメンバー会議	部会会議
第1部会	12回	8回 別途 住まいの応援談1回 ショートムービーPJ勉強会2回
第2部会	0回	6回

第1部会

空き家対策による人口流出の抑制対策発信力強化、及び流入人口の増加対策を主眼に、まちの総合戦略を検討する第1部会では、空き家発生抑制対策として地区住民に学識経験者・各種専門家を交えて検討会議を対面とzoomを使ったオンラインを併用したハイブリッド会議を開催し地区の空き家状況等の情報を共有した。

六原まちづくり委員会に参加する外部専門家を中心として、新たに住まいの終活をコンテンツとした「続・空き家の手帖～住まいの終活編～」を作成し、この冊子を動画のシナリオの元として地域住民参加型の動画を3本作製しyoutubeチャンネル「六原ちゃんねる」にアップした。

今年度の六原・住まいの応援談は「考古学者ふたり・五条坂を歩く」をテーマとしたセミナーを3月4日に開催した。木立先生、余語先生を招き五条坂周辺の歴史、五条坂の登り窯や五条通りに住んでいた職人の生活、建物疎開の前後の資料から当時の様子など、及び観光公害についてレクチャーしていただいた。

第2部会

住んでいてよかった町をテーマに、ハード、ソフト両面の取組を地域住民や外部の専門家・行政と共に取り組んでいる。昨年度からコロナによる活動制限が緩和され、今年度は完全に解除された状況の中で、6月の防災まちあるき（地域ローラー）や12月の六原フェスタ、それに3月の学区総合防災訓練などの機会を利用して、能登半島地震もあって関心が高まった防災の取組の重要性をアピールすることができた。

また、前年から継続して京都美術工芸大学（生川慶一郎教授とゼミ学生）の協力による「六原あんぜんあんしんマップ」の改訂に向けて、六原フェスタで設置したブースにおいて、クイズラリーに集まった子供からその親世代、また高齢者などの方々に、学区内のヒヤットとする危険箇所や安全・安心な所をヒアリングするとともに、マップ上にフラグを立て、「六原あんぜんあんしんマップ」作成にあたっての実用性向上を図った。

さらに、昨年度に引き続き、空き家・高齢者部会の「住まいの終活」に、防災部会からも合同参加で取り組んだ。

総合防災訓練では、4つのブースを設置し、区役所ブースでは備蓄物資の展示と説明、消防署ブースでは応急措置と心肺蘇生、市役所ブースでは災害時における救助の主体、道路閉塞、建物被害の説明、自主防災会ブースでは避難用持ち出し袋と高齢者避難をテーマに訓練を行った。参加者は108名であった。

【2. 活動の成果】

第1部会

「続・空き家の手帖～住まいの終活編～」を元にした動画作成のワークショップを通して空き家がどうして発生するのか、どうすれば空き家になる前に予防できるのかという知識の共有を、地域住民参加型とすることで地域に広く周知できた。また動画作成を通して地域住民同士の交流をうながすことにも寄与できた。

動画による地域の情報発信をしている youtube チャンネル「六原ちゃんねる」にアップすることで「地域が主体的に動画配信するまち」として継続的にコンテンツを増やすことができ六原の情報発信の強化につながり、六原の魅力を伝えるツールとなってきている。

住まいの応援談では普段まちづくり委員会に参加していない地域の方も数多く参加していただけた。まちづくり委員会に参加していない地域の方々にも地域の歴史に触れていただき六原の地域自体やまちづくりに興味をもってもらえる良いきっかけとなった。

第2部会

六原フェスタにおいては、昨年、グラウンドを使用する形に戻すことができ、今年はさらにステージや飲食も含めて本来のフェスタを展開し、老若男女多くの方々に楽しんでいただくことができた。その中で、防災まちづくりブースにおいては、会場内に防災に関するクイズを4

か所配置し、防災クイズラリーとして楽しみながら防災について学ぶことができるようにした。参加は74名であった。

また、平成29年度に改訂した「六原あんしんあんぜんマップ」の再更新に取り組んできているが、クイズラリーに参加した子どもの保護者などから、学区内の安心、安全に係る意見を聴取し、地図上にその位置を表わす旗を立ててもらった。防災に関するだけでなく、交通安全に関する情報が多く得られたことから、スマホ用にデータベース化するなど、マップの実用性の向上を図っていくこととする。

地域ローラーでは、防災まちあるきとともに、京都府建築士会や東山消防署、京都市まち再生・創造推進室などの協力を得て、防災・耐震セミナーを開催した。建物の危険サインや電気火災の対策とともに、京都市における防災まちづくりの取組として、防災のための各種補助制度や路地奥での建替制度を知っていただく機会となった。